

留学だより vol. 4

December

“Butter makes batter better.” Justin Bieber を Just in beaver と聞き間違えた 9 月からは英語が成長しています。13 期生の増田です。12 月と言えばクリスマス、雪国カナダの本場のクリスマスをお伝えします。

1. 12 月初め

実は 11 月からみんなクリスマス気分でした。まず 11 月 25 日には Christmas Walk という商店街をライトアップして大きなクリスマスツリーに電気をつけるイベントがあります。サンタも歩いていたようです。(コロナ後 2 年ぶりの開催だった



ようで、存在を知っている人が周囲に少なく私はいけませんでした…。)

近所の家々も電飾をつけ始め、夜に歩くとたくさんデコレーションが見れました。

12 月になると子供は Advent calendar (降臨節カレンダー) を毎日めくってクリスマスまでのカウントダウンをします。日付の書いてあるドアをめくると一つチョコが入っており、毎日少しずつ食べるのですが、大きなチョコが入っていると嬉しくなります。ドイツ発祥の文化のようで、Luke のお母さんが送ってくれました。

2. Christmas Movie

私が思っていた以上にクリスマスはカナダ人にとって大事なもののようで、例えば映画で魔法や奇跡が起きるのはほとんどクリスマスの日です。定番のクリスマス映画と言えば Grinch, Home Alone, Elf, The Santa Clause, The Polar Express, A Christmas Story, Christmas Carol, It's a wonderful life (素晴らしき哉、人生!) などでかなりの名作揃いです。日本のクリスマス映画は恋愛系が多いですね。

私が洋画をほとんど知らなかったのもあり、12 月は毎週 2 作品見ていきました。



12 月はずっと飾り付けをしており、人気キャラ Grinch の看板を立ててライトアップしている所も

3. クリスマスの食事

12月はずっとクリスマス気分で、1か月通して Ginger bread cookie (おなじみの人型クッキー), Sugar cane (飴の杖), Snicker Doodle (小さいクッキー), Yule Log (チョコで覆ったロールケーキ) など甘いクリスマスのお菓子を作っては食べます。

ドイツ人同居人の Luke はシュトーレンというレーズンが大量に練りこんであるパンを本国から送ってくれました。粉砂糖が振りかけてあり甘く、ずっしりと重いパンとケーキの中間のようなものです。



なぜかホストの家にはクリスマスイヴに中華料理を食べるようで、フライドチキンとメープルシロップで味付けした豚の ribs とともに、炒飯とエビを食べました。メープルシロップの味付けは思いのほか美味しかったです。



Charcuterie board という生ハムやチーズ、チリソースなどを自分でクラッカーに挟んで食べる appetizer (食欲をそそるもの、前菜もしくはおつまみみたいな感じ) もあり、映画を見ながらつまんでいました。そこまで手間はかからないはずですが特別な日にしか作らないものだそうです。



クリスマス当日は日本のようにクリスマスに白いショートケーキを食べることはせず、七面鳥がディナーの主役です。Thanksgiving 同様、Stuffing (七面鳥の詰め物) や クランベリーソース、ポテトなどと一緒を楽しみました。

4. プレゼント

クリスマス当日はプレゼントの開封と雑談と食事が終わってしまいました。徐々に増えていたツリーの下のプレゼントを配って一斉に開けました。プレゼントには誰から誰へと書いてあり、一人分が大きな箱を四箱ほどだったりします。高価な貴金属ではなく、美容クリームやヘッドホン、防寒着など実用的なものが多かったです。

普段は遠くに住んでいるホストシスター二人とその彼氏がほぼ一日中家にいて、クリスマスは家族で必ず集まって家族愛を確認する行事だということを感じました。



5. Christmassy な Merry Christmas

Merry Christmas! と本当に言うんだ、というちょっとした発見がありました。クリスマス休暇前日の学校では「よいお年を！」のように言っていました。Christmas は Christ の文字を含むため厳格な人は Special holiday と他の名前で呼ぶそうです。

さらに驚いたのは Christmassy という単語があることです。クリスマスっぽい、という意味ですが、クリスマス初心者の私には雰囲気掴みにくい言葉です。



6. ルーク：「コロッセオがあったら盛り上がりそう」

カナダで最も人気なスポーツ、アイスホッケーのシーズンが始まりました。私の町は North Bay Battalion というチームを持っていて、軍服を着て睨めつけている顔のマスコットと Go troops go (ゆけ、兵士たちよゆけ) という何とも物騒な掛け声で応援します。スケートリンクは、眩しいライトアップ、空中に並ぶモニター、大きな歓声、たくさん並ぶ売店など充実した施設で、カナダ人のホッケー愛を感じます。毎回一人は学校の友達を見かけるほどです。また学校対抗戦もありますが、こちらは照明や音響がない代わりに無料なので気軽に行ける娯楽になっています。



真ん中は殴り合いの様子（二人とも退場）、右は反則した選手が入るボックスに6人もいる様子

リンクをフェンスが囲っておりサイドラインがなく、四隅が丸いため、ゴール裏を通してパスをつなげるなど独特なプレーが見られます。スケートで動き、パック（ボール）が小さく軽いのでスピード感もあります。

ただ喧嘩が多いのが難点で、一試合少なくとも3回は喧嘩があります。フェンスにスケートの勢いのまま相手選手と激突することもあります。特に隣町 Sudbury とはライバル意識が強く、ヘルメット・グローブをとって複数人で殴り合いを始めるなど酷かったです。観客も喧嘩の時に一番盛り上がり応援しだします。

7. FIFA ワールドカップ

日本男子チームがドイツとスペインに勝ってとても盛り上がりましたね。留学生で集まるとみんな自国を応援するので気分があがります。正直同居人がドイツ人でよく話す友達がスペイン人なのでヒヤヒヤしていましたが、どちらもインドア派だったので何も起こりませんでした。

8. さすがにもう冬

11月までは大体0°Cから15°Cの間だった気温が、11月下旬から急に寒くなり始め、当たり前のように毎日最高気温が0°C以下になっています。12月中旬にはダウン2枚・ジャケット・ニット帽(tuque)・手袋がないと散策などできません。

水が流れる用水路や公園の池ももちろん凍り、膝下まで雪が積もりました。-1°Cで雪が降ったときは雪が湿っているので軽く転がしただけで雪だるまが出来上がり、木の枝にさえ雪が積もります。-10°Cで降ったときは粉雪で雪玉は作れないもののスキーに最適な雪になっていました。スキーをする前に一旦つけてしまいましたが。



ちなみに、Lake Effect Snow（湖水効果雪）といって、冬季に相対的に暖かい五大湖が水蒸気を供給して雪雲が発生し、沿岸部に大雪をもたらす現象がありました。この時は南にあるトロントの方が北部地域より雪が多く、不思議な体験でした。

また、数週間ほど、ACアダプタを接続してからでないパソコンが起動できなくなりました。精密機器は寒さに弱いのと、11月下旬（急激に気温が落ち込んだ時）に入ってからこの症状が出たので、おそらく寒暖差によるものだと勝手に思っています。時間が経って自然に直ったので、今は問題ありません。

9. 日本人みたいなカナダ人

カナダはアメリカと交易が盛んで、避寒地フロリダに旅行するカナダ人も多くアメリカに対する仲間意識はあるものの、間違われるとひどく不快に思います。（日本人が他の東アジアの国の人と勘違いされたときと同じ感じです）

また、アメリカと一緒にされたくないためか、カナダの誇りは強いです。俳優 Jim Carry, Keanu Reeves 歌手 Justin Bieber, Celine Dion, Drake, 映画監督 James Cameron (Titanic, Avatar, The Terminator) などを見かけたときは「彼はカナダ人だぜ」と言ってきますし、福祉や教育の面で優れているのでアメリカは人の住むところじゃないとジョークをかます人もいます。バスケットとガスマスクの開発者はカナダ人です。

さらにカナダ人はよく謝ります。sorryなんて滅多に使うものじゃないと教わりますが、カナダでは日本のように悪いことをした人とされた人とどちらも sorry というので日本人には馴染みやすいでしょう。

最後まで読んでいただきありがとうございました。来月分もお楽しみに。 増田